

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所  
事業所名：松本市中山保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	講評
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</li> <li>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</li> <li>■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</li> <li>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</li> <li>■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 素朴で素直な中山地区の子ども達がたくましく心豊かに育つことを目指し、地域や保護者と共に子ども達の最善の利益を尊重すると謳う理念、「明るく元気な子ども」、「だれとでも仲よく遊ぶ子ども」、「自然と関わって遊び、感動できる子ども」を保育の目標に0～5歳まで、発達に応じた全体的な計画をたてている。</p> <p>そして、その実践を進めるために、職員会で毎年、評価、反省をし、次年度の課題を見出して新たな計画に反映している。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</li> <li>■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</li> <li>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</li> <li>■ 9 内装等には、木材を利用している。</li> <li>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</li> <li>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</li> <li>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>園舎は古いですが、園庭の周りは桜、梅、柿、藤の木などが植えられて木陰を作り、園舎前の畑には桑、栗の木もあり、芝生の園庭は子どもたちには十分な遊びの場所となっている。</p> <p>廊下も右、左に矢印で方向が示されており、子ども達による掃除が行き届いている。また、トイレのサンダルは使用後の子どもたちが自分で揃える自律心が視える。</p> <p>[検討課題]</p> <p>園舎の老朽化がすすみ、隙間からの風、夏の暑さの対策は必要と思われる。</p>
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</li> <li>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</li> <li>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</li> <li>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</li> <li>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</li> <li>■ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>子ども一人ひとりの家庭や個人差を把握しながら、子どもの気持ちに寄り添い、解りやすい言葉がけをしている。</p> <p>また、子どもの良いところを見つけるように心掛け、子どものエピソードを大事にした援助がなされている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>子どものエピソードが偏ることなく、全ての子どもの姿を大切に保育の効果に期待したい。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 各年齢の発達に合わせた食事、排泄、衣類の着脱、身の回りの清潔、睡眠などの基本的な生活習慣が身に着くように支援をしている。</p> <p>また、年齢、季節により、クラス便りで保護者に生活習慣を知らせる取り組みもある。</p> <p>[検討課題] 自分の体に関心を持ち、基本的な生活習慣を進んで行う事ができ、そのことへの理解が深まる支援を更に期待したい。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>子どもの姿を捉え、意欲を持って遊びに入れるようになって欲しいという願いから、0～5歳まで週1回リズム遊びを取り入れている。</p> <p>そこでは、リズムに合わせて身体を動かすことで、子ども達の体幹も整い、体力もついている。</p> <p>また、散歩のコースもさまざまあり、近くの公共施設と交流したり、いろりを囲んでお話を聴いたり、田植えなど、地域の人との様々な体験が子どもの育ちを豊かにしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>いろいろな経験と体験により、子どもたちの活動の更なる広がりに期待したい。</p>
			⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。</li> <li>■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。</li> <li>■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 一人ひとりの子どもの発達に合わせて声かけをしているので、安心して生活ができています。そして、子どもの目線にあわせて絵本に自分で触れることが可能な棚や木のおもちゃなど、手や指をつかう手作りの玩具もある。</p> <p>散歩には2歳のクラスと一緒に田んぼのあぜみち歩きや芝広場、近くの公共施設にでかけての探索活動を多く設けている。</p> <p>また、二十日大根やオクラを育てて楽しみにする姿もある。これらの活動を連絡帳を通して毎日伝えて、成長の喜びを保護者と共有している。</p> <p>[検討課題] 部屋の老朽化による環境への配慮、工夫は更に必要と思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。</li> <li>■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</li> <li>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</li> <li>■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</li> <li>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。</li> <li>■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</li> <li>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 一人ひとりの子どもの個性を大切に、ボールを置いたり、床に線を描いたり、体を動かす動機付けが豊富な部屋の環境設定に心掛けている。</p> <p>また、散歩に出かける機会を多く取り入れ、坂道を登ったり、田んぼのあぜ道などを歩き、徐々に距離を伸ばして様々な探索活動の機会を提供している。畑づくりもインゲンやミニトマトなどを栽培して、生長を楽しんでいる。力を入れている排泄の自立については保護者と協力して、子どもの状態をみながらオムツ外しや衣服の着脱などの配慮、支援をしている。</p> <p>[検討課題] 部屋の老朽化による環境への配慮、工夫は更に必要と思われる。</p>
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学前の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 3～5歳までのマスタープランをたて、それぞれの子どもの自分を発揮できるような支援が行われている。リズム運動では全員がピアノの音を聴いて身体を動かしたり、音楽の楽しさを味わっている。畑は各年齢で話し合い、玉ねぎ、ジャガイモ、人参、ズッキーニ、おもちゃかぼちゃなど、多種類の野菜を育てて生長を喜び、給食の食材や調理体験に活かしている。公共施設等が多くある環境を活かした散歩では、地域の人たちとの接する機会が多く設けられており、毎月クラス便りでは、様々な活動のなかから子どものエピソードを加えて保護者に伝えている。</p> <p>保育の振り返りの継続で、保育の質の向上が更に期待できると思われる。</p>
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。</li> <li>■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</li> <li>■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</li> <li>■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。</li> <li>■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</li> <li>■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</li> <li>■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 支援の必要な子どもには、加配保育士が主に対応しており、個別支援計画をたてて保護者、医療も含めた関係機関と支援会議をおこなっているので、集団の中で安定した生活が送れている。専門機関による巡回相談もあり、発達障害や様々な障害についての研修も実施されている。</p> <p>[改善課題] 保護者全体に対しても、障害についての理解を深める取組も期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b) <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</li> <li>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</li> <li>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</li> <li>■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</li> <li>□ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</li> <li>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</li> <li>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 早朝は長時間の部屋で、夕方は未満児と以上児に別れての延長保育を行い、それぞれ戸外で遊んだり、部屋でままごとをしたりと、異年齢の交流を楽しんでいる。長時間日誌には遊びの内容などの記録があり、名簿リストでは降園時間の記録欄を設け保護者が記入している。</p> <p>[検討課題] 6時以降の子どもの捕食について、保護者と話し合いを経た検討や、降園時間の記録票への迎えに来た方の氏名記入欄なども必要と思われる。 なお、成長の著しい子どもにとってのおやつの意義を保護者へ周知・理解を進めることも保育士の専門性と意識したい。</p>	
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a) <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</li> <li>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</li> <li>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 保育の年間計画の中に小学校との連携が謳われ、小学校探検、音楽会、運動会招待など、近くの学校との交流を多数設け、毎月、小学校便りも配付している。また、小学校教師の保育参観も設けている。 参観日のおりには就学についてのガイダンスを行い、保護者の不安解消の支援も行っている。 なお、三歳児からは瓶牛乳の提供としている。</p>	
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b) <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</li> <li>■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</li> <li>■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。</li> <li>■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</li> <li>■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</li> <li>■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</li> <li>■ 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</li> <li>□ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 保健計画のマニュアルが作成・実施されており、一人ひとりの心身の健康状態、予防接種状況を把握している。 また、毎月の行政からの保健たよりや、毎月の身体の発達記録を各家庭に配布・報告している。 体格調査で肥満や痩せの際は家庭の食事調べを行ったり、尿検査の際は日本語の他4か国語の案内を配布するなどの配慮もしている。 感染症などが発症した時は園便りで保護者に伝え、0、1歳児の午睡時のSIDS対策では12分おきのプレスチェック表で、名前、時間を記入して、各子どもの様子を確認、記録するなど、健康管理については積極的である。</p> <p>[検討課題] 保護者等に対してもSIDSに関する知識や情報の提供で家庭への注意喚起を行うなど、家庭での事故防止に向けた積極的な取り組みを期待したい。</p>		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 年間計画に沿い内科健診、歯科健診を年2回行い、健診の結果は記録し保護者に伝えている。歯科については年少児対象に歯科栄養教室を実施し、健診の結果は行政の保健師にも報告をしている。</p> <p>[検討課題] 検診後、治療等が必要な場合は受診を勧めるなど、完治に向けての連携した健康の維持・増進となる体制を期待したい。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] アレルギー対応ガイドラインがあり、アレルギーの子どもの受け入れの際は、保護者、園長、調理員と面接をして対応を定め、エビペンの研修もしている。また、慢性疾患の対応の手順書も作成されている。</p> <p>[検討課題] アレルギー等の有無にかかわらず、全保護者にアレルギーや慢性疾患について、園での取り組みに対する理解や啓発は必要と思われる。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 0歳～5歳までの年間の食育計画が作成されており、子どもの発達に合わせてフォークや箸を使った食事の援助、食器の配慮をしている。畑で野菜を育てて調理の体験をしたり、田んぼで稲を育てたりと、様々な体験が年齢に応じて設けられている。また、栄養量に関しては食材等の好き嫌いに配慮しつつ、成長を考慮した給与と摂取のバランスが保たれるように努めている。そして、毎日の献立をサンプルケースに展示し、食材の産地なども明示しており、降園時、親子でサンプルケースを見ながら、給食の献立で会話を弾んでいる。時には子どもにも好評だった園での給食のレシピを調理員が説明・配布する姿もある。なお、行政の環境教育として、年長児にはゴミの分別、食品ロスの削減の教育支援もしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>市の栄養士の献立の下に食事の提供がされており、個々の発育状況、体調に合わせた食事の支援に努め、また、一人ひとりの食べる満足感を大切にしている。</p> <p>時には、ほうとう、山賊焼き、味噌ぱんなどの地域食の提供も行い、園長の他、各調理員は感染症等がでていなければ毎日子どもと食事を共にするなど、楽しむ食事、大人との食事、季節ごとの食材や郷土食への興味、そして、感謝の気持ちも育っている。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>参観日、懇談会、保育参加などを行い、保護者の理解を促している。</p> <p>また、ホワイトボードにその日の活動を掲載したり、毎月のクラス便りや連絡帳で保護者と連絡をとり理解を深めている。</p> <p>保育参加は父親の参加も多く好評であり、子どもの成長を共有している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>相談については、どんな些細な事でも期日、内容など、記録として残しておくことを期待したい。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>□ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>登園時に子どもの表情、衣服などの視診で注意深く観察し、午睡時の着替え、身体測定の際は特に細かく観察を行っている。気になる保護者には、園からコミュニケーションをはかり、関係づくりを大切にしている。</p> <p>また、行政や児童相談所との連携もある。</p> <p>[検討課題]</p> <p>虐待については全職員で子どもの権利、擁護についての研修、予防などの取り組みも期待したい。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>保育計画に基づいた週案、日案を通して、保育実践の振り返りをしている。</p> <p>今年度よりKJ法を取り入れて、職員会では子どもの姿、保育士の願いなど、情報を視覚化して子どもを捉えて見ることに取り組み、保育の質の向上に繋がっている。</p> <p>また、保育士自身の自己評価チェックリストを取り入れての振り返りもしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保育実践の各振り返りが保育内容の向上に活かされて改善が進んでいるのか、後日の検証も必要と思われる。</p>